

令和7年度 徳島県立徳島中央高等学校【定時制課程夜間部】学校評価計画

【令和7年度 徳島県立徳島中央高等学校学校経営方針】

1 本校の教育目標

(1) 基本目標

生命を大切にすることを育み、心豊かな人間を育成する。学ぶ意欲と熱意に応じて、多様な学習形態と学習機会を提供し、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができる定時制・通信制教育を展開する。

(2) 重点目標（中期目標）

- ① 基本的生活習慣を確立し、生徒一人一台端末を活用して、基礎学力を定着させるとともに、キャリア教育、体験的活動と教育的支援の拡充を図ることにより、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ② 人権教育、道徳教育、安全教育を推進し、人権尊重の精神を尊び、自主的・自立的に行動できる人間を育成する。
- ③ 目標に向かって地道に努力する生徒を育成し、一人一人の生徒の良さを積極的に見つけ、伸ばしていく学校づくりに努める。
- ④ 学校運営のビジョンを教職員と保護者、地域や産業界の方々と共有し、互いにパートナーとして、連携・協働のもとに「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を充実させていく。

2 本年度の重点目標

(1) 生徒の学びの充実

- ① 徳島県GIGAスクール構想の推進（教育DXを加速）
- ② 人権教育の充実（他者の思いや考えを的確に理解できる想像力を育成）
- ③ 特別支援教育の充実（特別な支援を必要とする生徒への対応）
- ④ 主権者、消費者、防災教育の充実（成人年齢引下げに対応した安全で安心な教育）

(2) 教職員の資質向上

- ① コンプライアンスの推進（わいせつ、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観、強い使命感の醸成）
- ② 次世代を見据えた人材育成（校内研修の充実とチーム学校として年代を超えた学び合い）
- ③ 働き方改革の推進（業務の効率化と簡素化を推進）

(3) 学校の特色化、魅力化（目指す学校像）

- ① スクールポリシーの共有（生徒一人一人が主体的な学びに取り組むことを支援）
- ② 地域に開かれた学校（定期的な情報発信）
- ③ 生徒、保護者が学びたい、学ばせたいと思う学校（様々な体験活動を通じて豊かな人間性や社会性を育む）
- ④ 地域から信頼され、愛される学校（保護者、地域住民や学校運営協議等の意見を的確に反映させる）

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評 価	総合評価	
(1)	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B ----- ① 全体的には熱心に取り組むことができたものの、生徒それぞれの特殊な事情により一部目標の達成には及ばなかった。 過去4年間で、ICTを活用した授業の促進を進めてきたものの、生徒の学力や意欲は頭打ち状態にある。 学校がない日中は、仕事をするのが普通という感覚になりつつある。	マルチ基礎の学習では多くの生徒さんが意欲的に取り組み、学力の定着が見られ素晴らしい結果が出ていると思う。 「意欲的に授業に参加できた生徒の割合」は90%と高く生徒の学習意欲を引き出す取り組みが評価できる。 ICTの活用の満足度は8割となっているが、デジタル機器を活用した学習方法は万能ではないので、それぞれに合ったやり方が分かれば十分なのではないかと思った。 高い進路目標を持つ生徒への対応を高める。 「生徒の満足度」は80%と一定の成果は認められるものの、さらなる向上に向けて、授業方法や学習支援の在り方について、どの点を重点的に改善すべきかを整理することが課題ではないか。 ここ数年にないほど就職に対する意欲が高まっているのは良い傾向
	①	①-1 基礎学力確認テスト得点30点未満の生徒割合を5%(1~2名)未満にする。(学力向上) ①-2 意欲的に授業に参加できた生徒の割合を90%(31人)以上にする。(学力向上) ①-3 生徒の授業満足度を90%(31人)以上にする。(学力向上) ①-4 生涯学習および望ましい勤労観、職業観を育むことができるような取組を月1回以上実施する。(学力向上)	①-1 学校設定教科「マルチ基礎」や課外学習時間「ハッピータイム」を活用することで、基礎・基本的知識・技能の定着を図る。 ①-2 生徒の意欲、関心を高めるために授業改善を推進し、授業力向上週間を年2回以上実施する。 ①-3 授業のユニバーサルデザインを推進し、わかる授業かつ生徒の満足度の高い授業を実施する。 ①-4 学校設定科目「職業基礎A」をはじめ、学校行事や総合的な探究の時間、HR活動の時間などで、生涯学習や健康の重要性、望ましい勤労観、職業観を育ませる。		
(2)	②-1 「人権委員会」の活動を年7回以上実施し、生徒一人一人が、いじめ等の身近にある人権問題や人権課題について自分のこととして捉え、解決しようとする姿勢を身につけられるようにする。(人権教育課) A:年7回以上実施 B:年6~4回実施 C:年4回未満の実施	②-1 生徒同士が互いの個性を認め合い、自他の人権を尊重できる態度を身に付けさせるため、人権ホームルームや人権委員会の活動を充実させる。	②-1 人権委員による「中央人権の日」の人権啓発放送を年8回行い、それ以外にも人権委員による活動を各学期に1回行うことができた。活動時には、第1回の人権ホームルームで行った人権意識調査のアンケート結果を基にテーマを決定した。また、人権映画鑑賞会も実施した。	② 生徒の興味関心や学習状況に応じた展開ができたと感じるが、人権意識については今後も実践を重ねていきたいと考える。 レジリエンスでは、生徒によって受け取り方に大きな違いが見られた。不登校を経験している生徒にとっては、学校に意識を向ける足がかりになったことが感想から見られた。	② レジリエンスについては、各年代の生徒ごとに受け取り方に違いが見られたが、全体を通しては自分の内面と向き合えたという感想が多かった。次年度以降も引き続き実践をしていきたい。
	②-2 ホームルーム活動や総合学習の時間を利用し、レジリエンスを育む教育を実践する。(人権教育課) A:年5回以上実施 B:年3~4回実施 C:年3回未満の実施	②-2 レジリエンスを生徒に育み、一人一人りを共感的に受け止め、前向きに学校生活を送れるように支援する。	②-2 レジリエンスに関する人権ホームルームを、1年次に3回実施することができた。		

<p>③</p> <p>④</p>	<p>③-1 校内研修会に全員参加する。 (特別支援教育課) A：年2回以上参加 B：年1回参加 C：参加できなかった</p> <p>③-2 就業体験や会社見学をした生徒の割合を対象生徒全体(1年生を除く)の50%(10人)以上に する。(進路指導課)</p> <p>③-3 支援相談員と早期から密に連 携を図り、就職希望者の卒業生の 就職率を100%(7人)にする。 (進路指導課)</p> <p>④-1 エシカルクラブを中心とした エシカル消費の周知及びエシカル 教育の推進をする。(エシカル教 育)</p> <p>④-2 エシカル消費についての学習 活動では、全体で年間5回以上の 体験活動を実施する。(エシカル 教育)</p>	<p>③-1 生徒の実態に応じた教育相談 や特別支援教育に関する知識や技 術向上のための校内外の研修会へ の積極的な参加を促す。</p> <p>③-2 他の機関とも連携し、生徒の 希望する職種への就業体験や社会 参加の機会を推奨する。</p> <p>③-3 支援相談員やハローワーク等 と連携を密にし、生徒に適したア ルバイト先を開拓する。</p> <p>④-1 地域社会での校外学習及び地 域住民を巻き込んだ取組を実施す ることで、本校のエシカル消費教 育の取り組みを知ってもらう。</p> <p>④-2 エシカルクッキング等の体験 活動を取り入れ、生徒一人一人の エシカル消費の理解を深める。</p>	<p>③-1 多生徒の実態に応じた教育相 談や特別支援教育に関する知識や 技術向上のための校内外の研修会 への積極的な参加を促すことが できた。</p> <p>③-2 数名の生徒が複数箇所の見学 に行ったため、105%(在籍数 21名中参加延べ数22名)の就 業体験や会社見学への参加率とな った。</p> <p>③-3 100%(6人中6名)の生 徒が、就職内定に至っている。残り 1名は進学。</p> <p>④-1 PTA研修会を、エシカルと関 連付けて行うことで、本校の取り組 みを伝えるとともに、地域の方も交 えて活動を行った。</p> <p>④-2 総合的な探究の時間や文化祭 の準備などを通して年間5回以上実 施することができた。</p>	<p>③ 生徒の個別状況 を見ながら、それぞ れのニーズに応える ことができたと考え る。</p> <p>生徒の間で、学 校に来ていない時間 を、ただただ家で過 ごすのは恥ずかしい という感覚が芽生え てきているように思 われる。</p> <p>④ 調理実習や野菜 の栽培などを通じ て、地産地消の大切 さやエシカルとは何 かについて学ぶこと ができたが、全体を 通しての活動回数が 目標に他する事がで きなかったのが課題 である。</p>	<p>「ここ数年にないほど の生徒の就職に対する 意欲が高まっている」 とあるが、その理由が 知りたい。</p> <p>生徒個々の特性に応 じた学習指導が展開さ れており生徒の授業満 足度アップにつながっ ている。日頃の勤労意 欲への意識付けが浸透 している。</p> <p>生徒がお互いを尊重 し自他を認め合うこと の大切さ、自己肯定感 を養う取り組みが展開 されている。</p> <p>幅広い年齢層だかこ その人権意識の定着を どう行っていくかとい う難かしさ。言葉でい うのは、簡単ですが 現場の苦勞を感じる。</p>	<p>③ 生徒の意識改革は、1年 間ではできない。入学時 から常に働きかけること で、数年後に変化が出 る。どのような学校活 動を通して働きかけを 怠らなことが大切であ る。また、本校生徒は 、教員がどれだけ働く ことに意欲的かという 部分もシビアに見てい る。我々自身の就労意 欲も意識しなければい けない。</p> <p>④ エシカルという取り 組みを知らない生徒が 多い分、実際に学習を してからの取り組みに 対する意欲は高いよう に感じた。地域社会と 関わる上で大切な考 え方を教員側が生徒に どう伝えていくかによ って、意識も変わると 感じたので、次年度も 引き続き積極的な取 組みを実施していく。</p>
-------------------	---	--	---	--	--	--

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評 価	総合評価	学校関係者の意見		
<p>(2)</p> <p>①</p>	<p>評価指標(数値目標)</p> <p>①-1 管理職による教職員面接を年 2回以上実施し、ハラスメント行為の根 絶徹底と高い倫理観の醸成に務め る。(管理職)</p> <p>①-2 事故等の緊急事態発生時の対 応を職員間で共通理解しておく。 (防災環境教育課)</p>	<p>活 動 計 画</p> <p>①-1 教職員との積極的な対話を通 し教職員一人一人の理解を深め るとともに、適切な指導・助言に努 める。</p> <p>①-2 緊急事態発生時の対応マニ ュアルを作成し、研修を開いて各自 の役割や避難所運営の手順を確認</p>	<p>実施状況及び評価指標による達成度</p> <p>①-1 年2回の管理職面接や連絡 会を通して傾聴を心がけ、心身の 健康とハラスメントの根絶撤廃に努め た。</p> <p>①-2 緊急時発生時のマニュアルを 作成し、避難訓練で活用した。また、 避難訓練は10月までに2回行った。</p>	<p>(評定) B</p> <p>①高い倫理観を維持 し、1年を通して 生徒を第一に考え た学校運営を行え た。また災害を想 定して生徒・職員 の命を守る訓練や</p>	<p>風通しのよい職場づ くりを推進している。 面談でのコミュニケ ーション出来る限り 密に行い、風通しの良 い職場環境を作る。 ハラスメント認識の 部分については、繰り 返しの研修を必要と感 じています。</p>	<p>①引き続きハラスメント行 為の根絶と高い倫理観の醸 成に努めるとともに、教職 員一人一人のメンタルヘル スの維持・向上を重視し、 定期的な面談等を通じて 心身の状態の把握に努め、 安心して職務に専念できる 職場環境づくりを進めたい。</p>

②	<p>②-1 メンター機能が働く協働的な体制を構築し、世代を見据えた人材育成を行う。(管理職)</p> <p>②-2 職員・生徒に対して、「校内心肺蘇生法講習会」等の研修会を年1回以上実施する。(保健厚生課)</p> <p>③ ワークライフバランスのとれた働き方を推進し、教員が心身共に元気に働ける風通しの良い職場環境を作る。(管理職)</p>	<p>しておく。</p> <p>②-1 週1回定例の職員会議で分掌間、教科間の問題を共有することで、チーム学校としての機能を高める。</p> <p>②-2 職員・生徒に対して、「校内心肺蘇生法講習会」等の研修会を年1回以上実施し、安全管理体制の充実を図る。</p> <p>③ 校務負担のバランスに配慮し、年休の取りやすい雰囲気作りと、定時退勤を心がける。</p>	<p>②-1 定例職員会議等で生徒状況を共有し、指導の方向を確認しながらベテラン若手共にチームとして日々の業務にあたった。</p> <p>②-2 校内心肺蘇生法講習会、AED講習会との研修会を実施することができた。</p> <p>③定時退勤を徹底し、風通しのよい職場環境作りを心がけた。先生方それぞれに力を発揮していただいた。</p>	<p>確認も実施できた</p> <p>② 職員会議等では学年、分掌を超えて話し合いができており力を発揮しやすい職場環境作りを心がけ、チーム学校として総合力向上に努めた。</p> <p>③教員の心身のバランスに配慮した職場環境作りを行った。</p>	<p>生徒の状況を学年・分掌等の枠を超えてチームとして共有し、ベテラン教員と若手教員が役割を補完し合いながら支援に当たれている点は、「チーム学校」の実現に向けた取組として高く評価できる。</p>	<p>防災への意識や意思統一はまだまだ完全ではないので、違った形でのアプローチを行っていく。</p> <p>②③ 引き続き校内安全管理体制の充実を図ると共に教員の健康状態に配慮し、1年を通して心身共に健全に働ける校務分担を行う。</p>
---	--	---	---	---	---	--

重点課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評 価	総合評価	学校関係者の意見		
<p>(3)</p> <p>①</p> <p>②</p>	<p>評価指標(数値目標)</p> <p>①-1 アルバイト等を行う生徒を現状の60%(21人)から全体の70%(24人)以上にする。(進路指導課)</p> <p>①-2 出張授業や看護体験・インターンシップ等を推進し、校内研修の機会を1回以上提供する。(進路指導課)</p> <p>①-3 各種検定、資格試験に挑戦した生徒の割合を全体の20%(7人)以上にする。(学力向上)</p> <p>②-1 積極的に広報し、中央学校開放の日や中学生体験入学など本校夜間部での学びを希望する人々への学校紹介の機会を年10回以上設ける。(教務課)</p> <p>②-2 欠席連絡のない生徒の家庭に</p>	<p>活 動 計 画</p> <p>①-1 就職を希望している者で、必要な者には就職支援員との面談時間をもつ。</p> <p>①-2 進学希望者は1回以上体験行事やオープンキャンパス等に参加する。</p> <p>①-3 生徒の学力・学習状況を個人面談や授業評価アンケートにより把握し、適性に合った各種検定、資格試験の受験を奨励する。</p> <p>②-1 学校開放、中学生体験入学、PTA総会、文化祭等で保護者・地域社会との交流を深める。</p> <p>②-2 保護者と連携し、毎日登校す</p>	<p>実施状況及び評価指標による達成度</p> <p>①-1 93.5%(29名)の生徒が就労している。(30歳以上の成人は母数から省く)</p> <p>①-2 職場でのトラブル防止のための基礎知識について、徳島県労働委員会より出前授業を実施していただいた。また、2月9日に、校内職業体験を実施することになっている。</p> <p>①-3 36%(9名)の生徒が何らかの資格取得にチャレンジした。</p> <p>②-1 年間16回の中学生体験入学を設定し、昼間部志望者も含めて多くの中学生や保護者に学校設備や授業内容について紹介することができた。</p> <p>②-2 12月末時点で80%以上が出席</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>① 総合的に、就労意識が高まり、生徒の自主性が見られることが増えた。</p> <p>インターンシップに参加し企業とのマッチングがとられ、資格取得へのチャレンジは目標を達成することができた。</p> <p>②-1 目標数値を達成し、定時制高校での学びを希望する方へ本校を紹介できた。</p> <p>②-2 授業に出席す</p>	<p>様々な活動を通して、地域との連携関係機関との連携が図られている。地域との防災活動を積極的に行うなど、生徒自身の意識改革や積極性が表れている</p> <p>9割以上の生徒さんがお仕事なされていて皆さん大変な中、学習されていると改めて感じた。そんな中で4割近くの生徒さんが資格試験にチャレンジされているのは素晴らしい。</p> <p>年をとるにつれて座学がつかなくなるという側面もある。今後もっと多くの生徒さんがチャレンジされることを期</p>	<p>①今年度、卒業生の就活への意欲がほかの学年の生徒をも刺激して、自分の進路を見据えた活動ができた。次年度卒業生はこれをきっかけに、自分の進路成功へと進めるよう、引き続き指導したい。</p> <p>②-1 夜間部志望か昼間部志望かが曖昧な状態での体験入学希望者が多かったので、昼間部と連携を密にして今後も定時制高校の学びを紹介したい。</p> <p>②-2 欠席や遅刻に関して</p>

<p>③</p> <p>④</p>	<p>連絡をとり、授業に出席する生徒が80%（27名）以上になることをめざす。（生徒指導課）</p> <p>②-3 毎月5回以上ホームページを更新し、情報発信を行う。（HP担当）</p> <p>③-1 年間4回以上の体験活動・交流型の学校行事を実施する。（特別活動課）</p> <p>③-2 校内外で生徒自らが自分の意見を述べたり、生徒を対象とした様々な行事で、生徒自らが主体的に関わり、運営する機会を増やす。（特別活動課）</p> <p>③-3 部活動の加入率を50%以上にする（特別活動課）</p> <p>④-1 生徒会役員を中心として毎月あいさつ運動を行う。（特別活動課）</p> <p>④-2 校内美化とゴミ分別に取り組む。また、地震等の震災により落下物がない環境作りに全校生徒・教職員が取り組む。（防災環境教育課）</p> <p>A:全員が協力できた B:80%以上協力できた C:60%以下しか協力できなかった。</p>	<p>ることの大切さを説明し、欠席をしないように根気よく協力を求める。</p> <p>②-3 ホームページ等を活用し積極的に情報発信を行う。</p> <p>③-1 音楽鑑賞会や眉山登山、野球観戦・県立しらさぎ中学校との交流会等を実施する。</p> <p>③-2 生徒全員が、生活体験発表会クラス予選で発表し、在籍中に一度は県大会の予選を兼ねた校内選考会で発表する。また、生徒会活動に関わる人数を増やし、多くの生徒に役割があたるようにする。</p> <p>③-3 積極的に加入を呼びかけたり、部活動の内容を見直して、生徒の活動の場を増やす。</p> <p>④-1 毎月の学校安全の日に合わせて、生徒会役員を中心として行う。</p> <p>④-2 「とくしまGXスクール」の認定取得を行い、行動方針に沿って、学校行事の前後で「ゴミゼロキャンペーン」で校内美化とゴミ分別の徹底に努める。</p>	<p>することができている。遅刻が多い生徒には、日常の連絡の外、学期ごとの個人面談や、三者面談等で連携し改善できるように努めた。</p> <p>②-3 学校行事での取り組みをホームページの夜間部日誌を利用し、情報発信を毎月行った。</p> <p>③-1 しらさぎ中との交流会、本課程単独での眉山登山や野球観戦、三宮周辺の自主研修等の行事を実施することができた。</p> <p>③-2 生活体験発表作文のクラス発表会、校内発表会を開催し、全ての生徒が自分の体験を発表することができた。また、校内研修会では、生徒会が主体となった運営を行ったり、講師先生へのお礼を述べたりすることができた。</p> <p>③-3 12月末時点での加入率は36%であった。日中に仕事をしている者が増えた影響か、部活動に参加しようとする生徒は減少傾向である。</p> <p>④-1 自動車登校や送迎がほとんどになったこともあり、校門での活動をやめて、生徒会を中心に定期的に安全を呼びかけるように変更した。</p> <p>④-2 ナイトウィーキングや委員会活動で地域と校内清掃活動に取り組んだ。防災面では、授業で落下物や倒壊の危険がないかの点検や火災報知器や消火器などの用途や位置を確認した。「とくしまGXスクール」は3年に1度の更新を終え、再び3年継続の見通しがついた。</p>	<p>る生徒が80%以上になるという数値目標については達成できなかった。</p> <p>③ 教育活動を通して自己決定の場、自己存在感を醸成する場を設定し、一定の効果はあったと感じる。また、異年齢間交流の場にもなり、他学年とも積極的に交流できるようになってきた。</p> <p>次年度以降は、さらに活動の場を増やしていきたい。</p> <p>④教育活動の場を通して地域の方とコミュニケーションをとり、世代関係なく、協力したり、災害時の対応について学ぶことができていた。</p>	<p>待する。</p> <p>授業席率の未達成は残念。欠席や遅刻する習慣があると社会に出て損をするので在学中に徹底した改善が必要かと思います。</p> <p>しらさぎ中学校との交流活動は、生徒のコミュニケーション力や協働的に学ぶ姿勢を育む機会として効果的であり、評価できる。</p> <p>積極的な課外活動への参加が顕著にみられる。自己肯定感を醸成する活動ができています。</p> <p>行事等について、成果をどの指標で評価し、次年度改善にどう反映するかを明確にすることが課題ではないか。</p> <p>防災意識づけの訓練が実施されている。</p>	<p>は、進学・就職にも影響するため、毎日学校に登校するというのが当たり前になるように、入学時から粘り強く指導を行っていききたい。</p> <p>③ しらさぎ中からの進学者もいるので、スムーズな移行のためにも、さらなる相互理解が図れるようにしたい。</p> <p>また生徒会を中心とした生徒主体による行事の運営等、生徒の立場から自発的・自治的な活動になるように支援したい。</p> <p>部活動は教員の数が少なく、設置できる部が限られるので、生徒のニーズに対応することが難しく、年度により入部率は大きく変わってしまうことが課題である。</p> <p>④ 災害時に小さい子どもや高齢の方、ハンディーキャップのある方に対してそれぞれに適合した対応を考えることのできる力を養えるようにしたい。</p>
-------------------	--	--	--	---	--	---

「評定」の基準

A：十分達成できた

B：概ね達成できた

C：達成できなかった